

③スポーツへのアクセス向上～普及・強化～

ボツワナ「初代柔道隊員の遺志を継いで続けられる柔道支援」

2018年7月～
継続中(2023年9月現在)



小学校を巡回訪問し柔道を指導する協力隊員

背景/課題

ボツワナ共和国では1996年に柔道愛好家によりボツワナ柔道連盟が設立され、現在柔道人口は約800名である。2013年にJICA海外協力隊の柔道隊員が派遣され、国代表チームへの指導に取り組んでいたが任期中に不慮の事故で亡くなった。初代柔道隊員の遺志を受け継いだ教え子のガビン・モゴマ選手は、2016年のリオ・オリンピックにボツワナ初の柔道代表として出場した。コロナ禍を経て、現在は地方にあるNGOの施設にも柔道隊員が派遣され、全国的な普及が進んでいる。

目的

- 柔道の国代表チームの強化
- 青少年の心身の健全育成
- 全国的な柔道の普及

活動内容

- 国代表チームの支援、地域クラブチームへの巡回指導
- 幅広い年齢層に対する柔道を通した「礼儀・作法」や「マナー」の指導
- 教育現場への柔道の導入を目指した小学校やNGO施設等での指導

成果

- 小学校から社会人までの幅広い層の男女への指導により、ボツワナでの柔道の普及が図られた。
- 柔道を通して、健康な体を作ると同時に、礼儀作法やマナーの指導等、青少年の健全な心身の育成が行われた。
- 初代隊員の指導を受けたボツワナ人柔道家が、現在は指導者となり、地方での柔道普及活動に貢献している。